

青年期の感情コンピテンスの発達における社会的文脈の役割：文献的研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 出野, 美那子 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1830

■ 総説

青年期の感情コンピテンスの発達における 社会的文脈の役割：文献的研究

出野美那子
武蔵野大学人間科学部

抄録

感情制御、感情表出などの感情コンピテンスは、様々な発達段階において適応に重要な視点とされてきた。特に青年期には、認知的能力の複雑な発達、衝動制御困難が生起し、社会的文脈・環境からの被影響性は強まることが知られており、感情コンピテンスの発達において、この時期特有の脆弱性が存在するとされる。さらに青年期の感情コンピテンスの脆弱性は、青年期における心理社会的適応の脆弱性に繋がると考えられている。一方で、青年期における感情コンピテンスの発達が心理社会的適応へ及ぼす影響において、社会的文脈がどのように介在するのかについては、未だ検討が少ない。そこで本稿では、青年期の感情コンピテンスと社会的文脈の関連について研究を概観し、今後の課題、展望について検討する。

1. 青年期の適応と感情

自らや他者の感情を知覚、理解し、調整し、社会的に受け入れられる形で表出することは、心理社会的適応において重要視される能力である。特に怒りや悲しみのようなネガティブな感情はあまり歓迎されないものであるが、抑制したり無視したりせずに自分の感情として受け入れることは精神的健康において重要であり、場合によっては、ネガティブな感情を他者に伝えることがその後の人間関係において重要な場合もありうる。このような適応への影響性から、感情制御の方略、感情表出に関する研究は古くから注目を浴びており、成人期と同様に、児童期と青年期においても、感情制御や感情表出が内在化、外在化問題行動へ影響を及ぼすことを裏づける知見が蓄積されつつある (see meta-analysis, for adolescence, Schäfer et al., 2017; for children and adolescence, Compas et al., 2017)。しかし青年期における研究は、他の発達時期と比較して格段に少なく、感情制御、感情表出へ及ぼす影響要因の検討も進んでいないのが現状である (e.g., Silvers et al., 2017)。本稿では、青年期における感情にまつわるスキル (感情知覚、理解、感情知性、認知的制御、表出など) を感情コンピテンス (Saari, 1999) と捉え、感情コンピテンスと社会的文脈の関連について研究を概観し、今後の課題と展望について述べる。

2. 青年期の身体的・心理社会的特徴と感情

後期児童期から青年期は、第二次性徴に代表される、劇的な身体的、心理的变化の時期であり、行動と社会的環境、および脳機能の発達が相互に影響し合い、認知機能や適応を形成する時期で

ある (Shulman et al., 2016; see review, Kilford et al., 2016)。第二次性徴は、情動への生理的反応やドーパミンなどの神経システムに影響し (Silk et al., 2009)、急激な身体的生理的变化をもたらす。青年期には、感情や衝動に関わる扁桃体や線条体が発達する一方で、認知的 / 衝動性のコントロールに関わる前頭前野は未発達なままであるという不均衡状態が起きるため、感情制御や衝動のコントロールが難しく、社会的刺激に影響されやすいとされる (Shulman et al., 2016)。また抽象的思考や内省的思考が可能となるため、社会的認知、感情の理解や表出、自己知覚や注意といった自己制御能力において多くの変化がもたらされる (Rudolph, 2009)。社会的には、より複雑な他者の視点取得 (e.g., Symeonidou et al., 2016) が可能となり、大人との関係の再構築、友人関係や異性との関係の変化などに適切に対応しながら、適切な自己制御能力を獲得することが求められる (Steinberg et al., 2006)。さらに青年期は精神病理の好発時期であり、この時期の心理社会的適応のあり方は、性差や罹患率に独特の特徴を有し (Pine et al., 1998)、成人期以降の適応のあり方にも影響を及ぼすこと (Mash & Wolfe, 2015) が知られている。

加えて近年、感情刺激への身体的反応と適応の関連、感情制御の認知的方略、感情の表出行動など、様々な領域の感情研究において、青年期特有の性質が見出されている。例えば、青年期には感情制御の肯定的再評価が可能になること (McRae et al., 2012)、自身の感情を多面的に知覚・表現する能力は 15 歳頃を境に質的に変化すること (Nook et al., 2018) などである。感情制御に関わる脳の活動についても、青年期から早期成人期にかけて発達することが明らかとなっている。例えば、前頭前野腹内側部と扁桃体の機能結合性と認知的感情制御の関連 (Silvers et al., 2017)、青年期に発達する前頭前野腹内側部および前頭極の活動と、攻撃的行動をイメージすることの関連 (Strenziok et al., 2011) が見出されている。

このような青年期に起こる多くの心理社会的変化が、独立した成人役割への移行を可能にする一方で、精神疾患発症の脆弱性をもたらすのではないかと考えられている (Eldreth et al., 2013)。青年期における感情は、個々の行動、認知、身体的発達と社会的環境、適応の相互作用において重要な要素であり、脆弱性をもたらす発達の「窓」や効果的な介入方法・時期の同定に貢献することが期待される (Kilford et al., 2016)。

3. 感情コンピテンスと社会的文脈

青年期の感情と適応において、親・友人との関係といった社会的文脈は非常に大きな影響力を持つ (e.g., Shulman et al., 2016)。例えば、親がそばにいると危険行動が減少すること (Telzer et al., 2015)、友人がそばにいると危険行動・向社会的行動共に増えること (e.g., Gardner & Steinberg, 2005; van Hoorn et al., 2016; see review, Kilford, 2016)、動機づけ・感情に関わる脳機能への友人の影響 (see review, Nelson et al., 2015) などが挙げられる。危険行動を取った後の結果を予測し、論理的な検討を行うという成人と同等の能力があるにも関わらず、社会的文脈によって取る行動が変わりうるのである (e.g., Gardner & Steinberg, 2005)。

そのため、学校や友人関係、異性との関係など社会的関わりが格段に広がる青年期においては、感情コンピテンスと社会的文脈の相互作用が非常に重視される (e.g., Steinberg, et al., 2006)。Zeman の一連の感情の表示規則に関する研究 (ie., Zeman & Shipman, 1996) では、児童期後期から青年期において、感情の種類や状況に応じて、感情の表出や隠蔽、他の表情で代替することが

見出されている。親、友人、教師に対する時、誰もいない時では表出される感情の程度が異なるとする研究もある (Underwood et al., 1992)。本邦においては、森口 (2009) が、高校生2年生の感情表出の種類として、ありのままの感情表出や抑制の他に、他者を傷つけないように自己の感情の強さや表出の度合いを調節しようとする他者配慮的なスキルを抽出している。興味深い知見として、親・友人からのサポートの効果は性別や年齢によって異なるという報告もある。例えば、ストレスを受けた後に見られる内分泌反応は、後期児童期 (9-10 歳) には親の同席によって緩衝されたが、中期青年期 (15-16 歳) に緩衝されなかったこと (Hostinar et al., 2015)、親サポートと友人サポートのうつへの影響は、性別や年齢によって異なること (Finan et al., 2018) などである。このように、感情表出の相手によって表出する感情の種類や強度は異なり、子どもの感情の変化の程度にも影響するとされる。

4. 青年期における感情の社会化

個人の感情コンピテンスへ他者が及ぼす影響としては、長らく、子どもの感情制御や感情表出が社会に適切に受け入れられることを目指して、支援、教育する親の影響として研究がなされてきた (Eisenberg, 2020)。このような子どもの感情コンピテンスへの親の影響は、三つに大別される。(1) 親自身の感情制御方略やアレキシサイミア傾向、表出行動などのモデリング、(2) 子どもの感情表出に対する親の反応 (感情の社会化)、(3) 親の感情についての話し合いとコーチングである (Morris et al., 2007)。特に (2) 感情の社会化とは、例えば子どもの泣きに対する、親の具体的な反応 (怒る、なだめる、無視するなど) に見られる、親の方向づけや経験的な反応を指す (O'Neal & Magai, 2005; Klimes-Dougan et al., 2007)。本稿では、社会的文脈の一つとして、感情の社会化について以下に概観する。

4-1. 感情の社会化の方向性

感情の社会化は従来、親から子への一方向的影響として検討されてきた。親自身の感情への気づきのなさ、感情制御の困難さといった不適応的な感情コンピテンスは、子どもにとって感情制御の不適応的モデルとなり、親が子どもの感情に対してサポートティブでない懲罰的な態度をとることに繋がり、さらに子どもの適応的な情緒発達を阻害してうつや身体症状などに繋がる (Morris et al., 2007; O'Neal et al., 2017)。

しかし近年では親と子の双方向的、相互作用的なプロセスとして捉えられるようになってきている (e.g., Nozaki & Mikolajczak, 2020)。Morelen & Suveg (2012) は、感情価を伴う刺激についての親子間の話し合いにおいて、親の感情的な反応は、7-12 歳の子どもの感情的な行動と相互に影響し合っていたことを示している。このような親子間の感情的な相互作用のやりとりは、子どもの感情に関する能力の発達において豊かな環境を提供するものと考えられている。

4-2. 感情の社会化の担い手

親による感情の社会化に加え、後期児童期から青年期における友人による感情の社会化が、感情コンピテンスへ及ぼす影響についても徐々に検討されつつある。先行研究から、友人の感情制御が 10-18 歳の子どもの感情制御を高めたこと (Criss et al., 2016)、親からの社会化と同様に、子

どもの表出した感情への友人のネガティブな反応が子どものうつや身体症状に影響すること (Klimes-Dougan et al., 2014; Parr et al., 2016) が見出されている。このように、個人の表出した感情が友人にどのように受け止められ、どのような反応が返されるかということは、その後の個人の感情制御の方略および感情表出行動を左右し、その上で適応へ影響することが推測される。

5. 青年期の感情コンピテンスにおける社会的文脈の役割：今後の展望

今後の研究の展望について、以下に述べる。第一に、他の発達段階における感情コンピテンスの位置づけとの整合性を検討すること、縦断的な視点を持って感情コンピテンス発達の過程を検討していくことの必要性である。感情コンピテンスについて、幼児期、前期児童期には、自己制御、自己主張、実行機能などについて検討されており (Eisenberg et al., 1998; Saarni, 1999)、成人期においては認知的感情制御、感情表出として検討されている (e.g., Gross & John, 2003)。児童期における感情コンピテンスが、青年期を通じてどのように分化していくのか、それらは成人期とどのように異なるのか、青年期を通じてどのような社会的文脈が感情コンピテンスに影響するのかといった発達の軌跡についての研究は、今後の大きな課題であると言えよう。

第二に、神経心理学、精神内分泌学などの他分野との協働による学際的知見の蓄積である。先行研究の知見を鑑みても、青年期における神経心理学的、精神内分泌学的変化の感情コンピテンスへの影響は無視できない。生物学的指標と心理学的指標を組み合わせることによって、民族、人種間の共通点、相違点について検討できるだけでなく、心理的ケアの方策についても示唆が得られるものと期待される。

第三に、様々な社会的文脈の組み合わせとバランス、および個人と社会的文脈の相互作用を検討することである。先行研究を鑑みると、親の感情の社会化は青年期を通じて一定の影響を維持する、もしくは成長に伴い徐々に薄れる可能性が考えられる一方で、友人の感情の社会化は成長に伴って徐々に強くなる可能性が考えられる。親による社会化の機能不全、あるいは友人による社会化の機能不全を各々が補完するという可能性も考えられる。親、友人いずれかの影響のみでなく、両者を同時に検討することが必要であろう (Lougheed et al., 2016)。また親、友人からの子どもへの一方向的影響は検討されているが、双方向的影響については未検討であるため、子どもの感情と社会的文脈の相互作用についての検討が待たれる。

第四に、文化に根差して社会的文脈を考慮する必要性である。感情の社会化は文化の影響を多分に受けるため、本邦における親の感情の社会化は、世界的にも少なからず注目を集めてきた (e.g., Matsumoto, 2018; Trommsdorff & Heikamp, 2013)。しかし、本邦において感情の社会化に関する研究は少なく (but, Hayashi et al., 2009; Deno et al., 2021)、文化の影響は未検討のまま残されている。

以上の観点から、更なる研究を蓄積することにより、青年期の感情に関わるスキルの発達、心理社会的適応と心のケアについて示唆が得られるものと期待される。

付記

本研究は、JSPS 科研費 基盤研究 C (19K03278) の助成を受けて行われた。

引用文献

- Compas, B. E., Jaser, S. S., Bettis, A. H., et al.: Coping, emotion regulation, and psychopathology in childhood and adolescence: A meta-analysis and narrative review. *Psychological Bulletin* 143(9); 939-991, 2017
- Criss, M. M., Houlberg, B. J., Cui, L., Bosler, C. D., Morris, A. S., & Silk, J. S.: Direct and indirect links between peer factors and adolescent adjustment difficulties. *Journal of Applied Developmental Psychology* 43; 83-90, 2016
- Deno, M., Iimura, S. & Endo, T.: Reliability and validity of the Emotions as a Child Scale in Japanese children and adolescents: Focusing on children's anger. *Current Psychology*, online open access, <https://doi.org/10.1007/s12144-021-02136-1>, 2021
- Eisenberg, N.: Findings, issues, and new directions for research on emotion socialization. *Developmental Psychology* 56(3); 664-670, 2020
- Eisenberg, N., Cumberland, A., & Spinrad, T.: Parental socialization of emotion. *Psychological Inquiry* 9; 241-273, 1998
- Eldreth, D., Hardin, M. G., Pavletic, N., & Ernst, M.: Adolescent transformations of behavioral and neural processes as potential targets for prevention. *Prevention Science* 14; 257-266, 2013
- Finan, L. J., Ohannessian, C. M., & Gordon, M. S.: Trajectories of depressive symptoms from adolescence to emerging adulthood: The influence of parents, peers, and siblings. *Developmental Psychology* 54(8); 1555-1567, 2018
- Gardner, M., & Steinberg, L.: Peer influence on risk taking, risk preference, and risky decision making in adolescence and adulthood: an experimental study. *Developmental Psychology* 41; 625-635, 2005
- Gross, J. J., & John, O. P.: Individual differences in two emotion regulation processes: Implications for affect, relationships, and well-being. *Journal of Personality & Social Psychology* 85; 348-362, 2003
- Hayashi, A., Karasawa, M., & Tobin, J.: The Japanese preschool's pedagogy of feeling: Cultural strategies for supporting young children's emotional development. *Ethos* 37; 32-49, 2009
- Hostinar, C. E., Johnson, A. E., & Gunnar, M. R.: Parent support is less effective in buffering cortisol stress reactivity for adolescents compared to children. *Developmental Science* 18(2); 281-297, 2015
- Kilford, E. J., Garrett, E., & Blakemore, S.: The development of social cognition in adolescence: An integrated perspective. *Neuroscience and Biobehavioral Reviews* 70; 106-120, 2016
- Klimes-Dougan, B., Brand, A. E., Zahn-Waxler, C., Usher, B., Hastings, P. D., Kendziora, K., & Garside, R. B.: Parental emotion socialization in adolescence: Differences in sex, age and problem status. *Social Development* 16; 326-342, 2007
- Klimes-Dougan, B., Pearson, T. E., Jappe, L., Mathieson, L., Simard, M. R., Hastings, P., & Zahn-Waxler, C.: Adolescent Emotion Socialization: A Longitudinal Study of Friends' Responses to Negative Emotions. *Social Development* 23(2); 395-412, 2014
- Lougheed, J. P., Craig, W. M., Pepler, D., Connolly, J., O'Hara, A., Granic, I., & Hollenstein, T.: Maternal and peer regulation of adolescent emotion: Associations with depressive symptoms. *Journal of*

abnormal child psychology 44(5); 963–974, 2016

- Mash, E. J., & Wolfe, D. A.: *Abnormal Child Psychology* (6th ed); Boston: Cengage Learning, 2015
- Matsumoto, D.: Time to rethink the common view. *Asian Journal of Social Psychology* 21(4); 324-330, 2018
- McRae, K., Gross, J.J., Weber, J., Robertson, E.R., Sokol-Hessner, P., Ray, R.D., Gabrieli, J.D.E., Ochsner, K.N.: The development of emotion regulation: an fMRI study of cognitive reappraisal in children, adolescents and young adults. *Social Cognitive and Affective Neuroscience* 7; 11–22, 2012
- Morelen, D., & Suveg, C.: A real-time analysis of parent–child emotion discussions: The interaction is reciprocal. *Journal of Family psychology* 26; 998–1003, 2012
- 森口竜平：児童期・青年期における感情コンピテンスの特質と発達の傾向に関する検討．発達研究 23; 263-267, 2009
- Morris, A. S., Silk, J. S., Steinberg, L., Myers, S. S., & Robinson, L. R.: The role of the family context in the development of emotion regulation. *Social Development* 16; 361-388, 2007
- Nelson, E. E., Jarcho, J. M., & Guyer, A. E.: Social re-orientation and brain development: An expanded and updated view. *Developmental Cognitive Neuroscience* 17; 118-127, 2015
- Nook, E. C., Sasse, S. F., Lambert, H. K., McLaughlin, K. A., & Somerville, L. H.: The nonlinear development of emotion differentiation: Granular emotional experience is low in adolescence. *Psychological Science* 29(8); 1346-1357, 2018
- Nozaki Y & Mikolajczak M: Extrinsic emotion regulation. *Emotion* 20(1); 10-15, 2020
- O’Neal, C. R. & Magai, C.: Do parents respond in different ways when children feel different emotions? The emotional context of parenting. *Development and Psychopathology* 17; 467–487, 2005
- O’Neal, C. R., Weston, L. C., He, X., Huang, K. Y., Pine, D. S., Kamboukos, D., & Brotman, L. M.: Change in depression across adolescence: The role of early anger socialization and child anger. *Journal of Adolescence* 59; 1-7, 2017
- Parr, N. J., Zeman, J., Braunstein, K., & Price, N.: Peer emotion socialization and somatic complaints in adolescents. *Journal of Adolescence* 50; 22-30, 2016
- Pine D. S., Cohen, P., Gurley, D., Brook, J., & Ma, Y.: The Risk for Early-Adulthood Anxiety and Depressive Disorders in Adolescents with Anxiety and Depressive Disorders. *Archives of general psychiatry* 55(1); 56-64, 1998
- Rudolph, K. D.: The interpersonal context of adolescent depression. In S. Nolen-Hoeksema & L. M. Hilt (Eds.), *Handbook of depression in adolescents*; 377–418; New York: Routledge, 2009
- Saarni, C.: *The development of emotional competence*; New York: Guilford Press, 1999
- Schäfer, J. Ö., Naumann, E., Holmes, E. A., Tuschen-Caffier, B., Samson, A. C.: Emotion Regulation Strategies in Depressive and Anxiety Symptoms in Youth: A Meta-Analytic Review. *Journal of Youth and Adolescence* 46(2); 261-276, 2017
- Shulman, E. P., Smith, A. R., Silva, K., et al.: The dual systems model: Review, reappraisal, and reaffirmation. *Developmental Cognitive Neuroscience* 17; 103-117, 2016
- Silk, J. S., Siegle, G. J., Whalen, D. J., Ostapenko, L. J., Ladouceur, C. D., & Dahl, R. E.: Pubertal changes in emotional information processing: Pupillary, behavioral, and subjective evidence during

- emotional word identification. *Development and Psychopathology* 21(1); 7–26, 2009
- Silvers, J. A., Insel, C., Powers, A., et al.: The transition from childhood to adolescence is marked by a general decrease in amygdala reactivity and an affect-specific ventral-to-dorsal shift in medial prefrontal recruitment. *Developmental Cognitive Neuroscience* 25; 128-137, 2017
- Steinberg, L., Dahl, R., Keating, D., Kupfer, D. J., Masten, A. S., & Pine, D. S.: The study of developmental psychopathology in adolescence: Integrating affective neuroscience with the study of context. In D. Cicchetti & D. J. Cohen (Eds.), *Developmental psychopathology*, Vol 2: Developmental neuroscience; 2nd ed., 710–741; Hoboken, NJ: Wiley, 2006
- Strenziok, M., Krueger, F., Heinecke, A., Lenroot, R. K., Knutson, K. M., van der Meer, E., & Grafman, J.: Developmental effects of aggressive behavior in male adolescents assessed with structural and functional brain imaging. *Social cognitive and affective neuroscience* 6(1); 2–11, 2011
- Symeonidou, I., Dumontheil, I., Chow, W.-Y., Breheny, R., Development of online use of theory of mind during adolescence: an eye-tracking study. *Journal of Experimental Child Psychology* 149; 81-97, 2016
- Telzer, E. H., Ichien, N. T., & Qu, Y.: Mothers know best: redirecting adolescent reward sensitivity toward safe behavior during risk taking. *Social Cognitive and Affective Neuroscience* 10; 1383-1391, 2015
- Trommsdorff, G., & Heikamp, T.: Socialization of emotions and emotion regulation in cultural context. Barnow, S., & Balkir, N. (Eds.). *Cultural variations in psychopathology: From research to practice*, 67-92; Hogrefe, 2013
- Underwood, M. K., Coie, J. D., & Herbman, C. R.: Display rules for anger and aggression in school-age children. *Child Development* 63; 366–380, 1992
- van Hoorn, J., van Dijk, E., Meuwese, R., Rieffe, C., Crone, E.A.: Peer Influence on Prosocial Behavior in Adolescence. *Journal of Research on Adolescence* 26; 90–100, 2016
- Zeman, J. & Shipman, K.: Children's expression of negative affect: reasons and methods. *Developmental Psychology* 32; 842-849, 1996